

有限会社 フーズ・サプライ・イタミ DX宣言書

2025年12月24日
有限会社 フーズ・サプライ・イタミ
代表取締役 伊丹 正和

□ 経営理念

自らの売上げや利益の追求に明け暮れる事業では、社会貢献に乏しい
我社が顧客に提供する商品は常に『感動』の提供を絶対的原則とする
顧客の感動は買われた数から売上げとなり、我々全社員の『豊かさ』として戻ってくる

□ DXビジョン(2~3年後になりたい姿)

- ◆ デジタル技術とデータ活用により、受注から配送までをシームレスに連携するスマートな提供体制を構築し、正確・迅速で安心・安全な食品提供を実現する企業へ進化します
- ◆ 効率化にとどまらず、社員一人ひとりがデジタルを使いこなし、多能工として活躍できる働きやすい職場をつくり、業務品質向上を実現します
- ◆ 蓄積したデータを経営に活かし、在庫最適化・需要予測・収益改善に繋げ、安定した経営基盤を確立します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ~ 2026年12月)

戦略 「DX推進の基盤整備と意識改革の推進」

- 施策
- ・販売管理システムの入れ替えを円滑に進めるため、要件定義とデータ移行計画を策定
 - ・販売管理システムの入れ替えに伴う不安とセキュリティリスクを低減するため、全社員向けにIT基礎研修および情報セキュリティ研修を実施
 - ・業務効率化に向けて、現状業務のプロセスを可視化し、転記・重複作業を中心に改善策を検討
 - ・DX推進体制の構築に向けて、社内チーム編成と役割分担を明確化

➤ フェーズ2(2027年1月 ~ 2027年12月)

戦略 「システムの入替と業務デジタル化による効率化の推進」

- 施策
- ・受注処理にかかる負担を減らすため、AI-OCR等を活用したFAX内容の自動データ化により、手入力作業を最小化
 - ・在庫管理の効率化と精度向上のため、販売管理システム上で在庫情報の一元管理を実施
 - ・多能工化のさらなる推進に向けて、業務マニュアルをデジタル化し、共有・更新できる仕組みを整備
 - ・受注変更・キャンセルの管理負荷を減らすため、Web発注システム等の新しい受注方式の導入可能性を検討

➤ フェーズ3(2028年1月 ~ 2028年12月)

戦略 「データ活用によって経営判断と提供価値の高度化」

- 施策
- ・在庫の最適化に向けて、販売データに基づく需要予測機能の導入を検討し、販売管理システムと連携可能なツールを採用
 - ・データ活用による経営判断の高度化のため、販売・在庫データを可視化・分析できる基盤を構築
 - ・受注業務のデジタル化を見据え、同業他社と意見交換を行い、新しい受注方式の導入に向けた具体的な方向性を整理

□ DX推進体制

- ・代表取締役がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- ・自己資本比率 : 5%UP(～2028年12月)
- ・有給休暇取得率 : 75%以上を維持(2028年1月～)